米沢市埋蔵文化財調査報告書　第81集

K－574

大塚山遺跡
発掘調査報告書

2003

米沢市教育委員会

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第81集

大塚山遺跡
発掘調査報告書

2003

米沢市教育委員会

序　　文

本報告書は、米沢市教育委員会が平成14年度国庫補助事業として実施した「大塚山遺跡調査」の成果をまとめたものです。

本遺跡に関しましては、昨年度の試掘調査により遺構・遺物が確認されたことに伴い実施いたしました。

事業の成果を上げることができましたことは関係各位のご理解とご協力の賜ものと感謝申し上げます。今後とも開発事業に対し、円滑な調整を図り、可能な限り力を注いでいく所存です。

最後になりましたが、調査に際しご指導を賜りました文化庁、山形県教育庁社会教育課文化財保護室をはじめ、地権者、地元の皆様に対し、衷心より感謝を申し上げます。

平成15年 3 月

米沢市教育委員会

教育長　佐　藤　政　一

例　　言

1　本報告書は、平成14年度に文化庁の補助を受けて実施した大塚山遺跡発掘調査報告書である。

2　調査は、米沢市教育委員会が実施した。

3　現地調査期間は平成14年５月16日から同年６月４日（延べ22日間）

4　調査体制は下記のとおりである。

調査主体	米沢市教育委員会			
調査総括	村野隆男（文化課長）			
調査担当	手塚　孝（文化課文化財担当主任）			
調査主任	月山隆弘（文化課文化財担当主任）			
調査補助員	渡部明美			
調査参加者	青木さだ	江袋吉男	工藤敏夫	小出久三
	佐藤謙治	色摩三郎	庄司二美子	永井庄田
	中村正弘	水野とも子		
事務局長	情野憲治（文化課長補佐兼文化財主査）			
事務局	深瀬順子（文化課文化財担当主査）			
調査指導	文化庁　　山形県教育庁社会教育課文化財保護室			

5　挿図の縮尺は、挿図毎にスケールで示した。図化及び記号は、ＤＹ－土壙、ＴＹ－柱穴、ＸＹ－風倒木、ＡＮ－焼土遺構、ＡＺ－土器、ＢＺ－石器を示す。写真図版の縮尺は適宜行っている。

6　出土遺物は、米沢市埋蔵文化財資料室（米沢市万世町桑山269番地３）に保管している。

7　本書の作成は、１～３．４（２・３）が月山隆弘、４(1)．５が手塚 孝、全体は手塚 孝が総括した。

8　調査にあたっては、青木　正氏及び関係各位のご協力を得た。記して感謝申し上げます。

本　文　目　次

序　文
例　言

大塚山遺跡
1　遺跡の概要…… 1
2　調査の経過…… 1
3　検出遺構…… 5
4　出土遺物
(1) 土　器 …… 13
(2) 石　器 …… 19
(3) 礫　器 …… 19
5　考　　察…… 22

報告書抄録

附　表　目　次

表－1　大塚山遺跡遺構計測表…… 11
表－2　大塚山遺跡出土遺物観察表…… 17
表－3　米沢市の縄文前期編年表…… 18

挿　図　目　次

第1図　大塚山遺跡位置図 …… 2
第2図　大塚山遺跡調査区位置図…… 3
第3図　大塚山調査区基本層序…… 4
第4図　大塚山遺跡ＸＹ1風倒木平・断面図(1)…… 5
第5図　大塚山遺跡柱穴平・断面図(2)…… 6
第6図　大塚山遺跡柱穴平・断面図(3)…… 7
第7図　大塚山遺跡土壙外平・断面図(4)…… 8
第8図　大塚山遺跡土壙外平・断面図(5)…… 9
第9図　大塚山遺跡風倒木平・断面図(6)…… 10
第10図　大塚山出土土器実測図(1)…… 14
第11図　大塚山出土土器実測図(2)…… 15

第12図　大塚山出土土器実測図(3)…… 16
第13図　大塚山出土石器実測図…… 20
第14図　大塚山出土礫器実測図…… 21

附　図　大塚山遺跡遺構全体図

図　版　目　次

図版１　大塚山遺跡（調査区全景）
図版２　大塚山遺跡（ＤＹ１・ＤＹ２）
図版３　大塚山遺跡（ＸＹ１・ＸＹ２）
図版４　大塚山遺跡（遺物出土状況）
図版５　大塚山遺跡（遺物出土状況）
図版６　大塚山遺跡（調査区全景・調査風景）
図版７　大塚山遺跡（復元土器１・２）
図版８　大塚山遺跡（出土土器片１・２）
図版９　大塚山遺跡（小型土器・一ノ坂型石匙）
図版10　大塚山遺跡（出土石器類表面・裏面）
図版11　大塚山遺跡（出土礫器類表面・裏面）

大塚山遺跡

1　遺跡の概要

本遺跡は、市街地南方約５㎞、主要地方道米沢・猪苗代線のほぼ中心に位置する、諸仏町、大字笹野地内に位置し、標高270～275ｍに所在する。東西250ｍ×南北350ｍの範囲、約875,000㎡に分布する縄文時代（前期・中期）の遺跡である。

当遺跡に隣接する南側には、東西550ｍ×南北400ｍの遺跡範囲を有する大壇遺跡（前期～晩期）が分布する地域であり、両遺跡を合わせると米沢南部では、吾妻町の台ノ上遺跡に四敵する広大な遺跡である。また当遺跡北東側には、東西250ｍ×南北150ｍの遺跡範囲を有する大壇ｂ遺跡（前期～晩期）が分布し、東側には、東西200ｍ×南北250ｍの遺跡範囲を有する大壇ｃ遺跡（前期・中期）が分布する縄文時代の密集する地域である。

当該地付近の調査は、大塚山遺跡と大壇遺跡をあわせて過去４回の発掘調査を実施しており、1984年は高等学校建設に伴い、県教育委員会で緊急発掘調査を実施している。その調査では、竪穴住居跡５棟、土壙・ピット等数十基検出している。また、土器1,117点、耳飾り３点、石器・石製品等多数出土している。これらの遺物の大半は縄文中期末葉が最も多く、次いで中期中葉の遺物である。

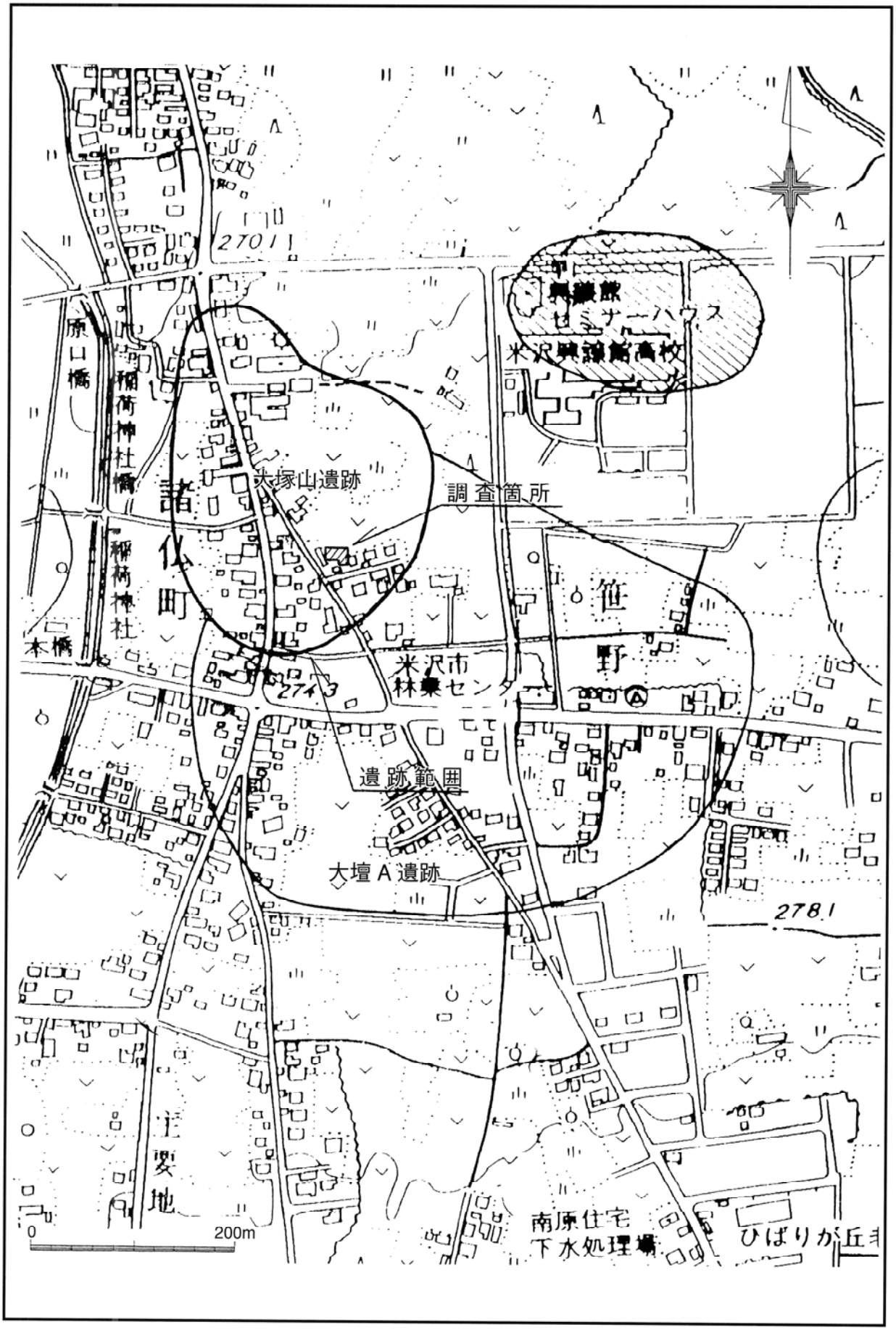
1987年は住宅建設に伴い、当市教委で緊急発掘調査を実施している。その調査では、竪穴住居跡３棟、土壙・ピット30数基検出している。また、復元可能な土器３点、石器・石製品200数点出土している。これらの遺物の大半は縄文中期末葉が最も多く、次いで中期中葉、前期初頭で、僅かに後期初頭と晩期の遺物が含まれる。

2　調査経過

調査は個人の住宅建設に伴うもので、事前の分布調査を平成13年６月22日に実施した。当該地の現況は宅地・畑地になっていることから、調査区は作物等の作付け箇所から除き、それ以外の範囲を調査した。重機により、４ｍ×約20ｍの範囲、約80㎡と小範囲のＬ字型の変形トレンチを設定し調査した。付近の耕作土は、排水が良好なさらさらした黒ボク土である。表土下約50㎝で茶褐色シルトの安定した地山層が確認され、地山層までは３層に分けられる。面整理及び面精査を進めることで、竪穴住居跡と推測される遺構が検出した。また、付近からは縄文土器片や石器片などの遺物が出土している。

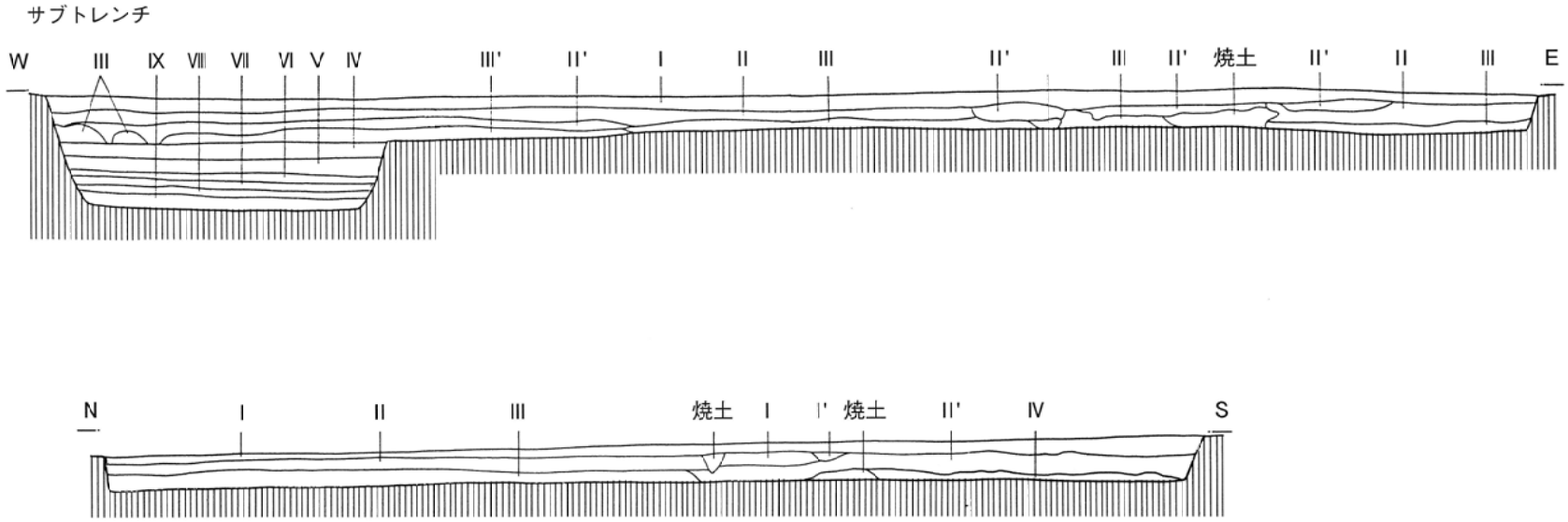
今回の発掘調査は、昨年度の分布調査結果を基に、平成14年５月16日から宅地に計画する部分約300㎡の調査区の表土剥離を重機で実施した。表土剥離は２日で終了し、５月21日から面整理、面精査を進めた。この面精査で判ったことは、昨年度の分布調査によって竪穴住居跡と推測される遺構を確認したが、この遺構は風倒木跡であった。６月４日から遺構掘り下げと並行し断面図、６月６日から遺構の平面図を作成し、天候にも恵まれ調査が順調に進行し６月14日に調査を終了した。

第１図　大塚山遺跡位置図



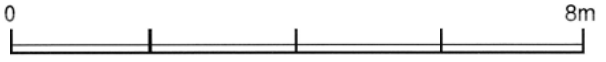
第2図　大塚山遺跡調査区位置図

第３図　大塚山遺跡調査区基本層序



基本層序

Ⅰ　表土（耕作土）
Ⅱ　黒褐色シルト
Ⅱ'　黒褐色シルト（土器若干含む）
Ⅲ　暗褐色シルト（遺物包含層）
Ⅲ'　暗褐色シルト（Ⅲより暗く小礫若干含む）
Ⅳ　茶褐色シルト
Ⅴ　褐色粘土質シルト
Ⅵ　暗褐色粘土質シルト（Ⅴが若干混入）
Ⅶ　褐色粘土質シルト
Ⅷ　赤褐色粘土質
Ⅸ　黄褐色粘土質



3　検出遺構

検出遺構としては、総計91基あった。調査区東側と西側にかけて柱穴・ピット群が86基、調査区中央部北側と東側壁には土壙が３基、南東壁面に焼土遺構が１基確認された。また、調査区北側と南側には分布調査では竪穴住居跡と推定していた遺構は、プラン確認時で風倒木跡であることが判り、竪穴住居跡は確認はできなかった。

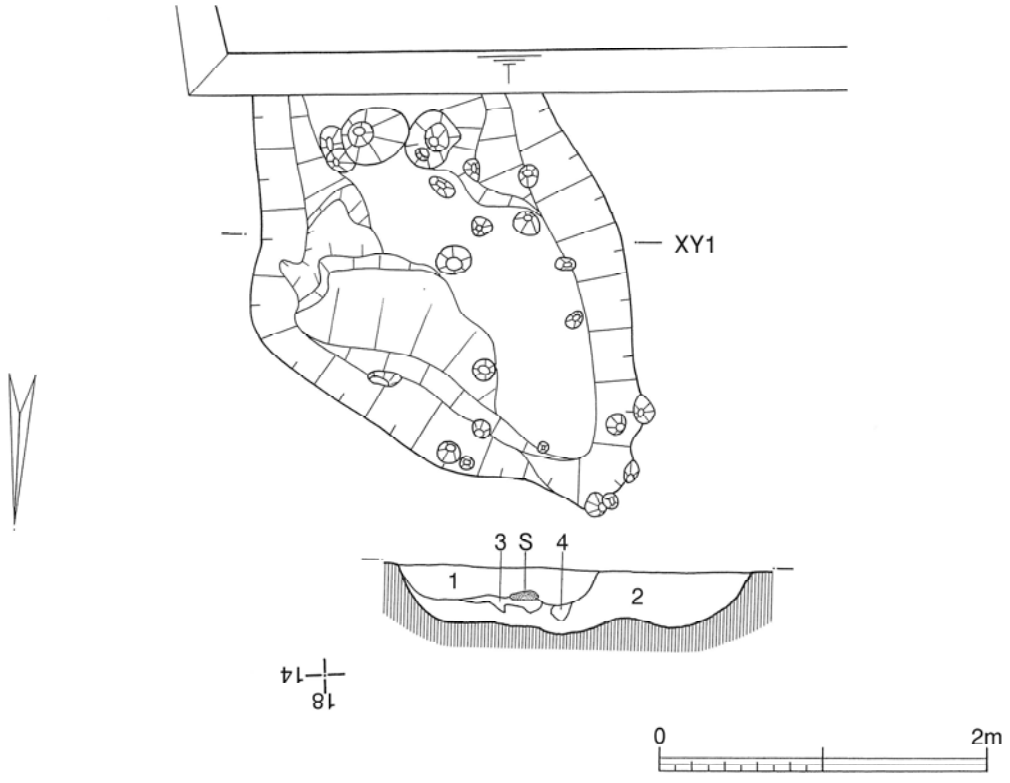
調査区の土層の基本層序は第３図のとおり、表土から遺構確認面までは３層あり、４層上面が茶褐色シルトの安定した地山層であった。遺構はこの４層上面で確認された。

今回の調査では、調査区が限定されていたこともあって検出された遺構は少なかった。当遺跡の中心は本調査区の東側及び北側の範囲に分布していることが推定される。

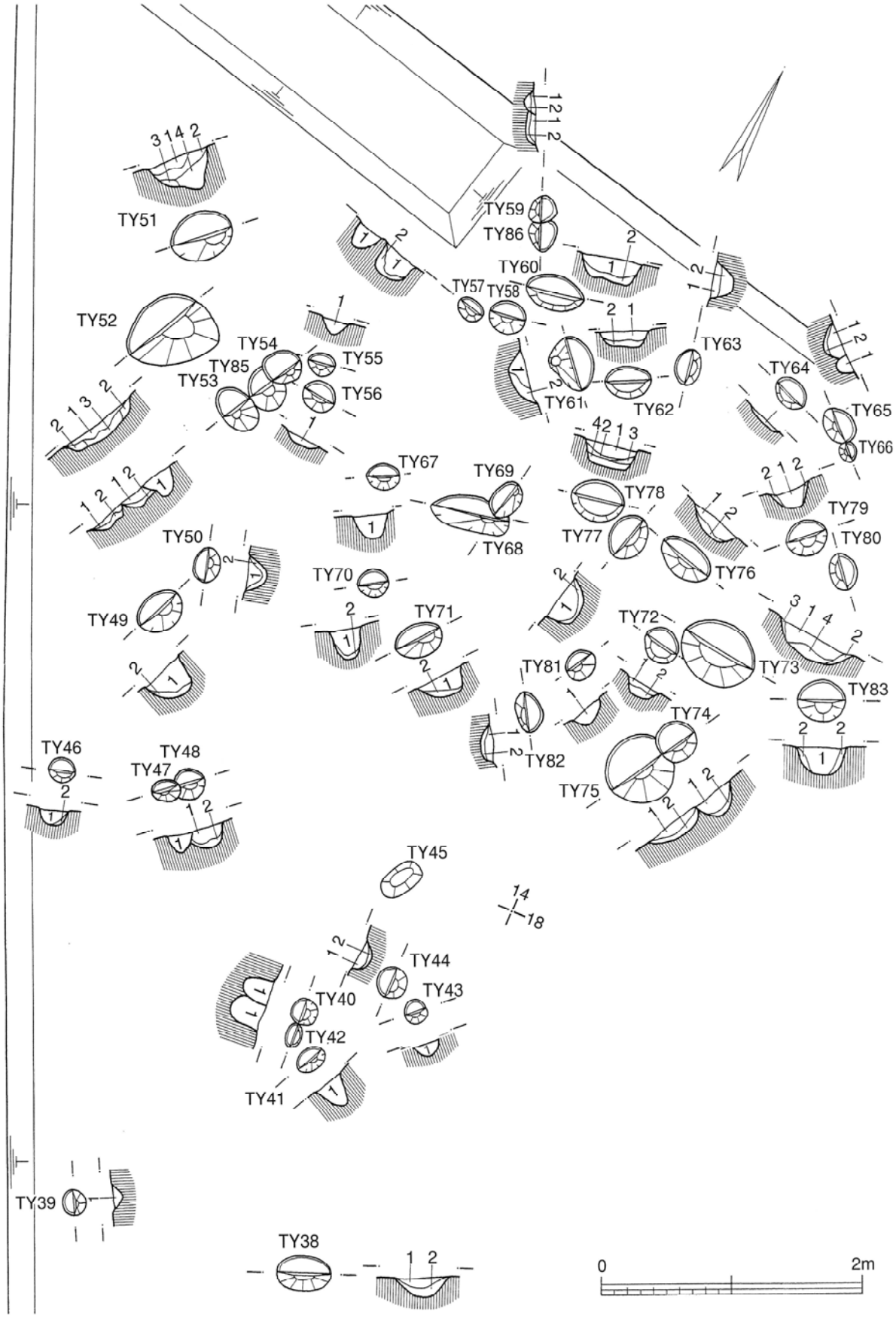
検出した遺構は前述のとおり柱穴がほとんどで平面形は円形、楕円形等であり、径は17㎝～65㎝、深さ４㎝～35㎝を測るが、径30㎝、深さ30㎝前後の柱穴が最も多く小規模である。柱穴からの出土遺物もほとんどなかった。覆土は概ね１～４層に分けられ自然堆積と判断される。

土壙は３基確認され、平面形は概ね楕円形で、径43㎝～72㎝、深さ13㎝～53㎝を測る。ＤＹ１等から土器が出土している。覆土は１～６層に分けられ自然堆積と判断される。

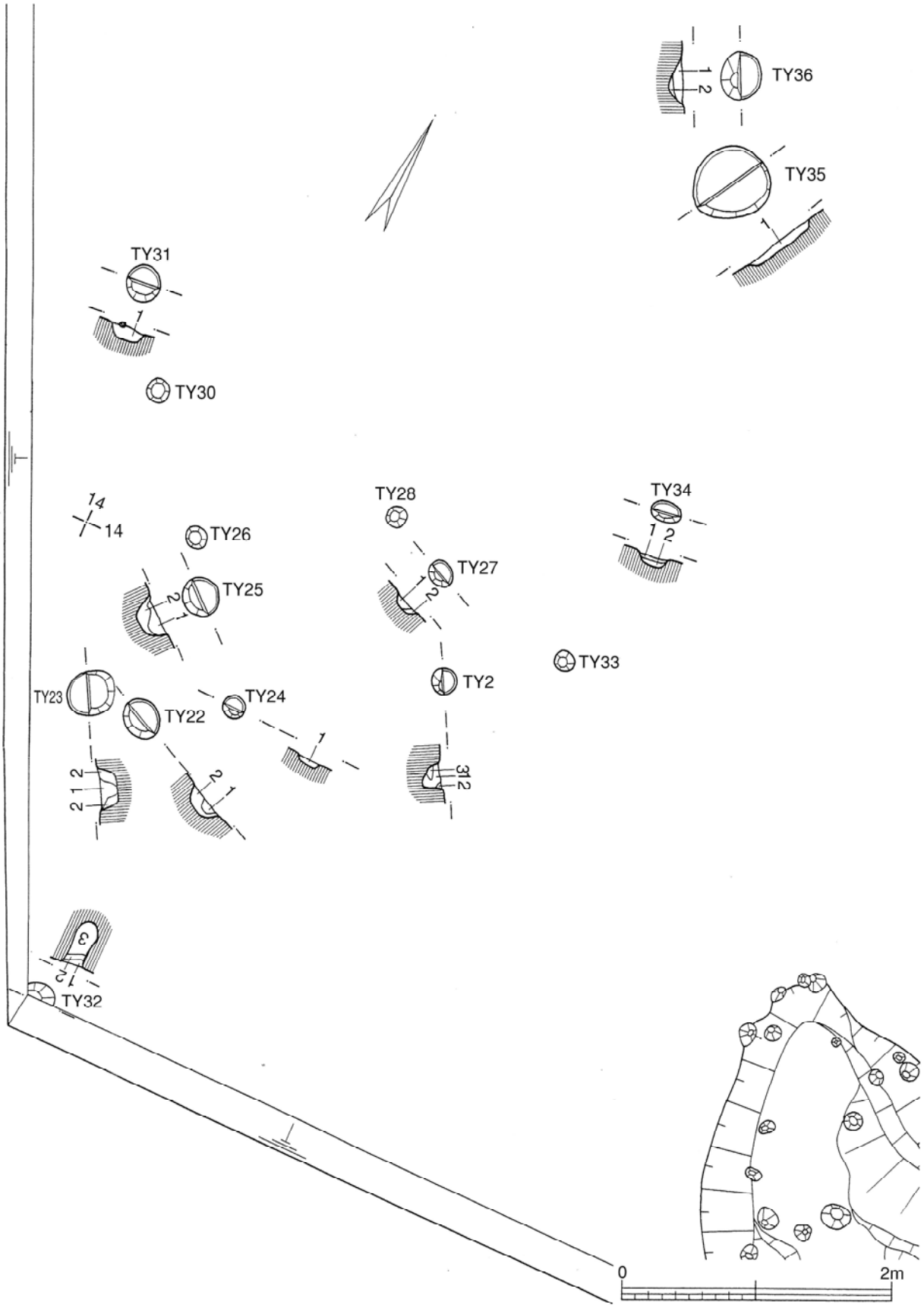
ＸＹ１・２は土層断面図の観察により風倒木と判断される。なお、検出された遺構については、表－１・２遺構計測表にまとめているので参照されたい。



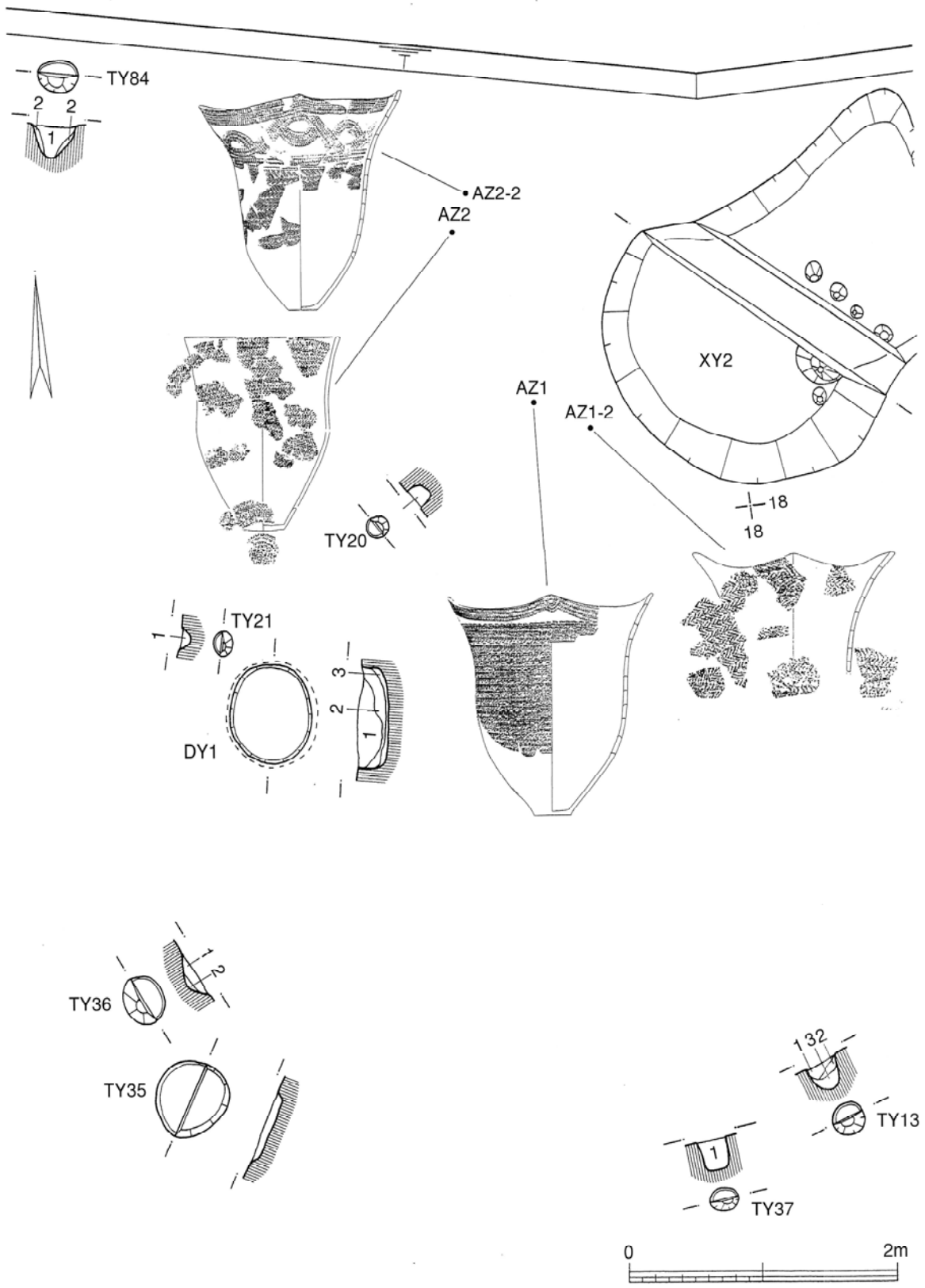
第４図　大塚山遺跡ＸＹ１風倒木平・断面図(1)



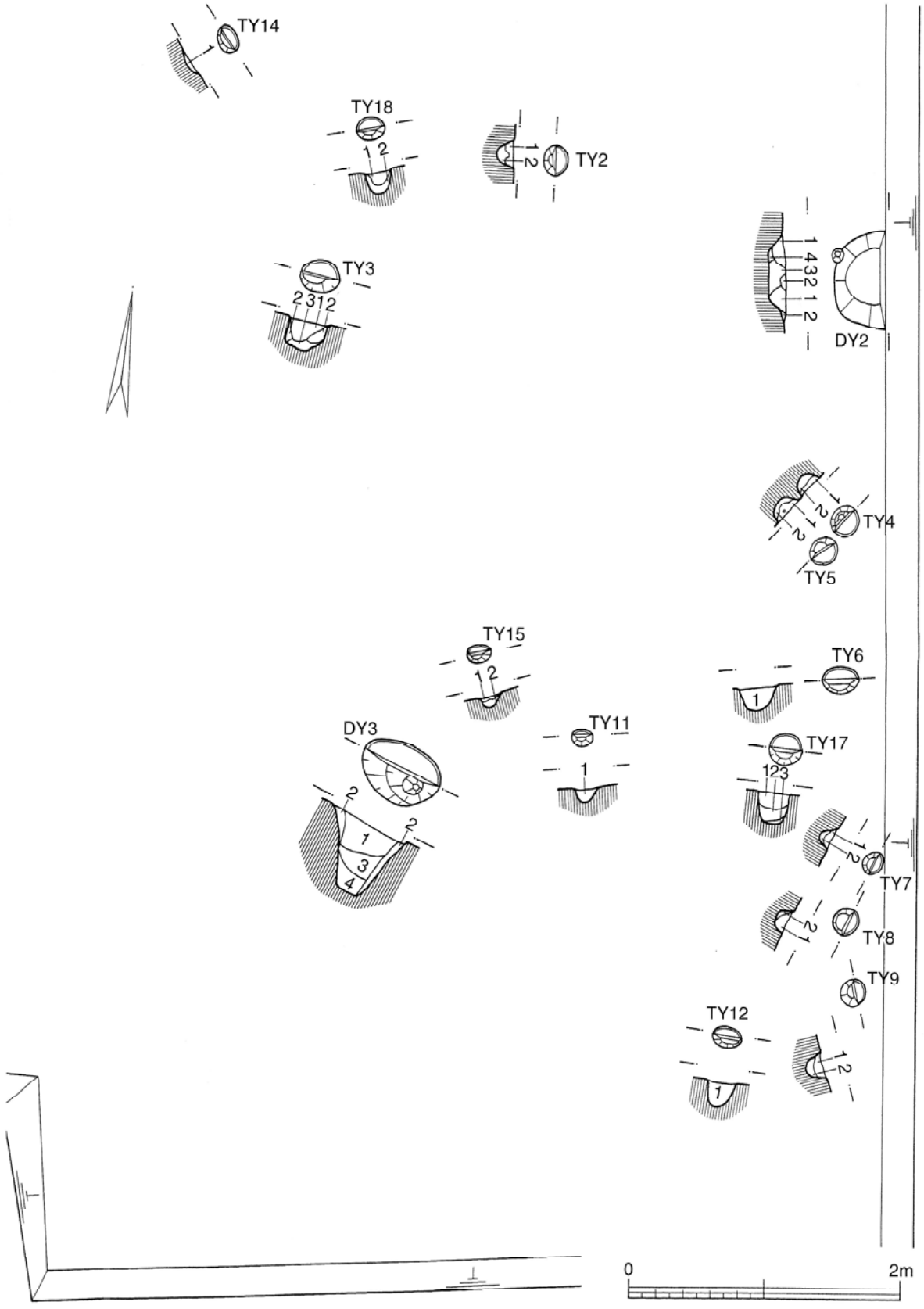
第５図　大塚山遺跡柱穴平・断面図(2)



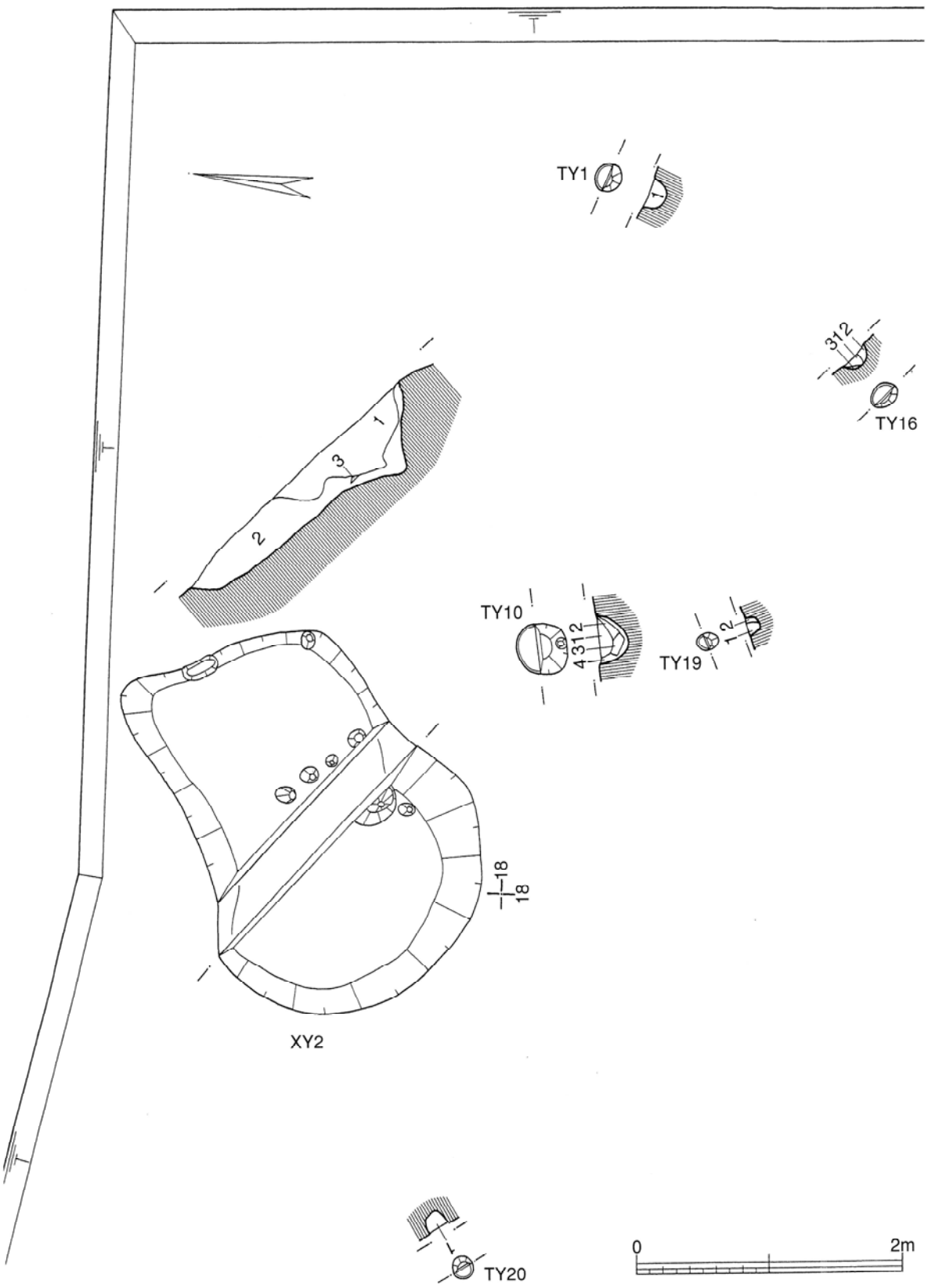
第 6 図　大塚山遺跡柱穴平・断面図(3)



第７図　大塚山遺跡土壙外平・断面図(4)



第 8 図　大塚山遺跡土壙外遺構平・断面図(5)



第９図　大塚山遺跡風倒木外遺構平・断面図(6)

表－1　大塚山遺跡遺構計測表

No	検出地区	長径×短径(cm)	深さ(cm)	平面形	備　　考
TY 1	G18 － 18	23 × 20	16	楕円形	
TY 2	G18 － 18	23 × 17	15	楕円形	
TY 3	G18 － 18	30 × 24	24	楕円形	
TY 4	G18 － 18	22 × 21	12	円形	
TY 5	G18 － 18	23 × 21	10	円形	
TY 6	G18 － 14	28 × 20	19	楕円形	
TY 7	G18 － 14	17 × 15	11	楕円形	
TY 8	G18 － 14	20 × 21	10	円形	
TY 9	G18 － 14	20 × 20	14	円形	
TY10	G18 － 18	39 × 37	25	隅丸方形	
TY11	G18 － 14	15 × 13	11	円形	
TY12	G18 － 14	22 × 16	20	楕円形	
TY13	G18 － 18	25 × 23	23	円形	
TY14	G18 － 18	20 × 15	4	楕円形	
TY15	G18 － 14	19 × 13	9	楕円形	
TY16	G18 － 18	22 × 18	11	楕円形	
TY17	G18 － 14	24 × 23	25	円形	
TY18	G18 － 18	22 × 17	18	楕円形	
TY19	G18 － 18	17 × 13	11	楕円形	
TY20	G14 － 22	18 × 16	14	円形	
TY21	G14 － 18	17 × 15	9	楕円形	
TY22	G14 － 14	32 × 26	14	楕円形	
TY23	G14 － 14	40 × 33	15	隅丸方形	
TY24	G14 － 14	18 × 18	6	円形	
TY25	G14 － 14	30 × 27	17	楕円形	
TY26	G14 － 18	17 × 15	5	円形	
TY27	G14 － 18	21 × 17	8	楕円形	
TY28	G14 － 18	16 × 16	12	円形	
TY29	G14 － 18	20 × 19	16	楕円形	
TY30	G14 － 18	17 × 17	8	円形	
TY31	G10 － 18	27 × 26	11	円形	
TY32	G14 － 14	(15) × (25)	35	円形？	
TY33	G14 － 18	15 × 15	18	円形	
TY34	G14 － 18	23 × 16	10	楕円形	
TY35	G14 － 18	59 × 55	8	楕円形	
TY36	G14 － 18	36 × 30	12	楕円形	
TY37	G14 － 18	22 × 17	23	楕円形	
TY38	G10 － 18	42 × 27	18	楕円形	
TY39	G10 － 18	20 × 18	9	楕円形	
TY40	G10 － 18	18 × 12	24	楕円形	TY42 を切る
TY41	G10 － 18	23 × 17	24	楕円形	
TY42	G10 － 18	20 × 20	29	円形	TY40 に切られる
TY43	G10 － 18	20 × 17	13	円形	
TY44	G10 － 18	24 × 24	13	円形	
TY45	G10 － 18	35 × 20	11	楕円形	
TY46	G10 － 18	20 × 18	12	円形	

No	検出地区	長径×短径(cm)	深さ(cm)	平面形	備　　考
TY47	G10 － 18	21 × 17	17	楕円形	TY48 を切る
TY48	G10 － 18	(20) × 24	16	楕円形	TY47 に切られる
TY49	G10 － 22	38 × 29	26	楕円形	
TY50	G10 － 22	26 × 20	16	楕円形	
TY51	G10 － 22	49 × 35	29	楕円形	
TY52	G10 － 22	65 × 55	15	不整楕円形	
TY53	G10 － 22	40 × 25	9	楕円形	
TY54	G10 － 22	30 × 25	19	不整楕円形	TY85 を切る
TY55	G10 － 22	22 × 17	12	楕円形	
TY56	G10 － 22	28 × 22	6	楕円形	
TY57	G10 － 22	22 × 15	19	楕円形	
TY58	G10 － 22	27 × 26	22	楕円形	
TY59	G10 － 22	20 × 18	10	不整楕円形	TY86 を切る
TY60	G10 － 22	47 × 28	19	楕円形	
TY61	G10 － 22	44 × 33	16	不整楕円形	
TY62	G10 － 22	35 × 26	14	楕円形	
TY63	G10 － 22	29 × 20	18	楕円形	
TY64	G14 － 22	27 × 20	4	楕円形	
TY65	G14 － 22	(28) × 22	15	楕円形	TY66 に切られる
TY66	G14 － 22	15 × 14	12	楕円形	TY65 を切る
TY67	G10 － 22	25 × 20	18	楕円形	
TY68	G10 － 22	62 × 22	22	不整楕円形	TY69 に切られる
TY69	G10 － 22	30 × 22	23	楕円形	TY68 を切る
TY70	G10 － 22	24 × 23	26	円形	
TY71	G10 － 22	38 × 27	18	楕円形	
TY72	G14 － 22	29 × 26	12	不整楕円形	
TY73	G14 － 22	60 × 47	21	楕円形	
TY74	G14 － 22	32 × 30	18	円形	TY75 を切る
TY75	G14 － 22	(46) × 53	13	円形	TY74 に切られる
TY76	G14 － 22	44 × 26	14	楕円形	
TY77	G10 － 22	35 × 27	20	楕円形	
TY78	G10 － 22	40 × 30	18	楕円形	
TY79	G14 － 22	30 × 26	18	楕円形	
TY80	G14 － 22	28 × 22	13	楕円形	
TY81	G10 － 22	23 × 22	12	楕円形	
TY82	G10 － 22	30 × 20	10	不整楕円形	
TY83	G14 － 22	38 × 33	22	楕円形	
TY84	G14 － 22	30 × 23	26	楕円形	
TY85	G10 － 22	34 × (20)	12	楕円形？	TY54 に切られる
TY86	G10 － 22	(22) × 21	8	不整楕円形	TY59 に切られる
DY 1	G14 － 18	72 × 62	20	楕円形	底部フラスコ状
DY 2	G18 － 18	70 × 38	13	隅丸方形？	
DY 3	G18 － 14	62 × 43	53	楕円形	
XY 1	G14 － 14	295 × 220	40	不整楕円形	風倒木跡
XY 2	G18 － 22	312 × 190	52	不整楕円形	風倒木跡
AN 1	G18 － 18	(80) × (30)	10	楕円形	焼土遺構

4　出土遺物

⑴出土土器

今回の調査で出土した土器は、縄文前期初頭を中心に総数で483点を数える。いずれも遺構確認面となるⅢ層面の上部に集中して検出されたものであり、大半が著しく磨滅を有していた。

ここでは、復元された２点の土器を含む43点を選出して概要を述べることにする。

１）Ａ群土器

胎土に多量の繊維と石英砂が混入するのを特徴とするもので、いずれも縄文前期初頭に属する仲間である。文様表出技法から次の類に分類した。

・Ａ群１類「第10図１・２」

撚糸圧痕文を口縁部付近に施文する土器群で、２点検出されている。両者とも磨滅が著しく明瞭に判別することができないが、上下２条の撚糸文を横走させた空間に左右斜めに撚糸圧痕文を加えることにより菱形文に近い文様を構成するものとみられる。中央に幾分くぼみを有する痕跡は、蕨状撚糸圧痕文とみられる。米沢市の松原遺跡、八幡原ＡＢ遺跡、大樽遺跡に類例があり、花積下層式に併行する土器群である。

・Ａ群２類「第10図５.14，第12図21～31.34.35.36.39」

半載竹管文を口縁部文様帯に施文するグループを一括した。第10図－５は、３条の半載竹管を用いた爪形を口縁部に沿うように横走させ、波状頂点に円と円弧を描いた文様で遮断することで富士山状の空間を表現したものであり、胴部を変則的なループ文で構成している。

第10図の復元土器は、口縁部と頸部の上下に半載竹管を配した空間に斜行する竹管を配して山形文を描き、頂点に円弧を埋めた構成となる。胴部は太状の節による羽状縄文を配置している。また、第12図－28のように併行する半載竹管文の間に山形文を配したものや第12図36のようにコンパス文を配するものも含まれる。

さらに、粘土を貼付して突起状の波状口縁を施すものが含まれており、半載竹管による沈線文で斜行文や併行、菱形を描いた内部を爪形文で埋めるものもある。これらの土器群は、国指定「一ノ坂遺跡」とほぼ類似する仲間であり、関東の関山式に併行する。

・Ａ群３類「第12図16.18」

半載竹管文や突刺文を下胴部から底辺部、底部に施文するものを一括した。

・Ａ群４類「第10図３～６．７～13，第12図19.20.32.33」

羽状縄文を施した土器を一括したもので、Ａ群土器の約６割を占める。比較的太状の節を用いるのが特徴で、結束を示す羽状縄文は第12図－32の１点のみであった。

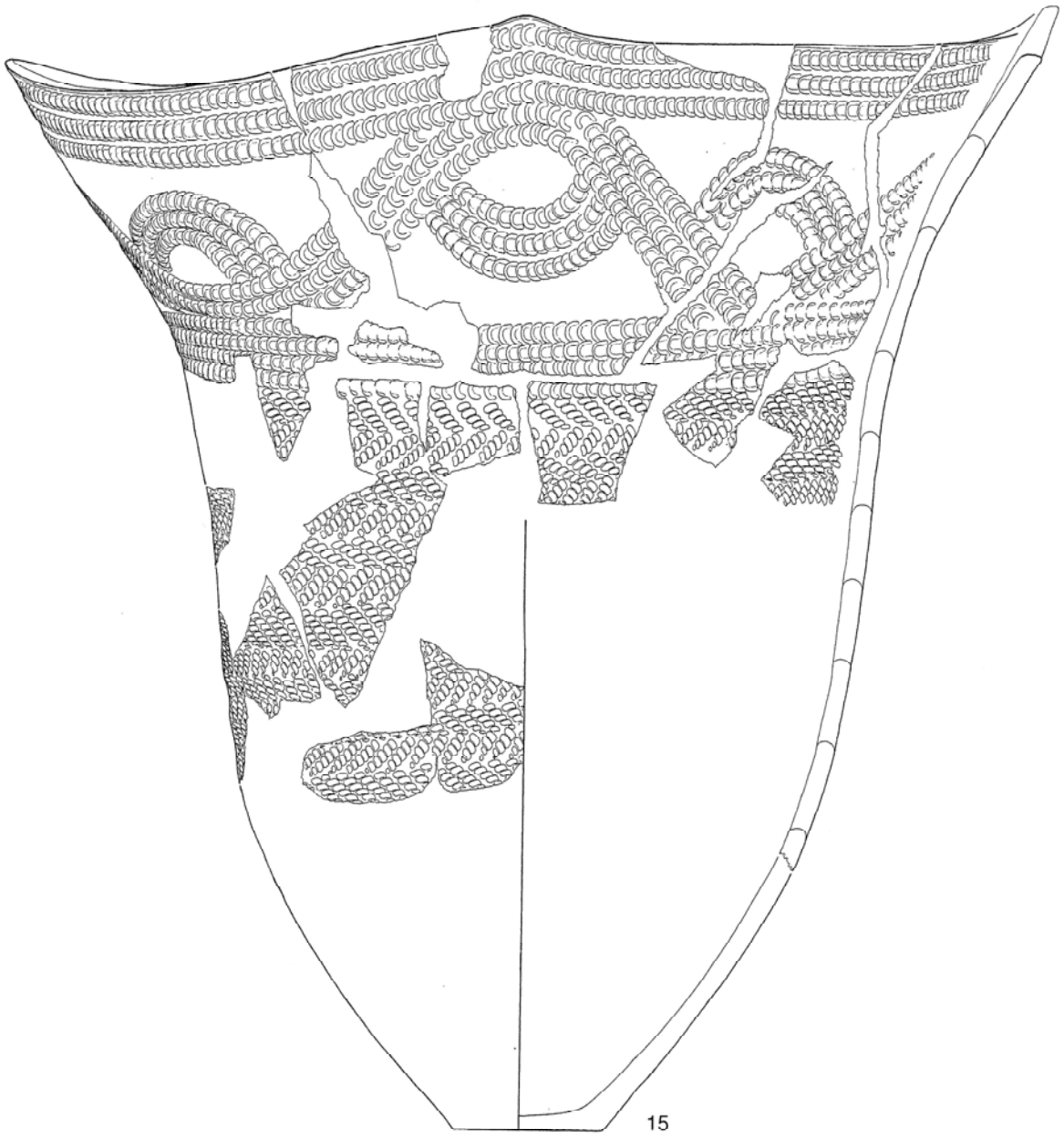
・Ａ群５類「第12図16.37.38.40」

ループ文を施した土器を一括したものであり、Ａ群土器の約４割を占める。全体的な文様構成が一ノ坂遺跡に類似している割合には少ないといえる。

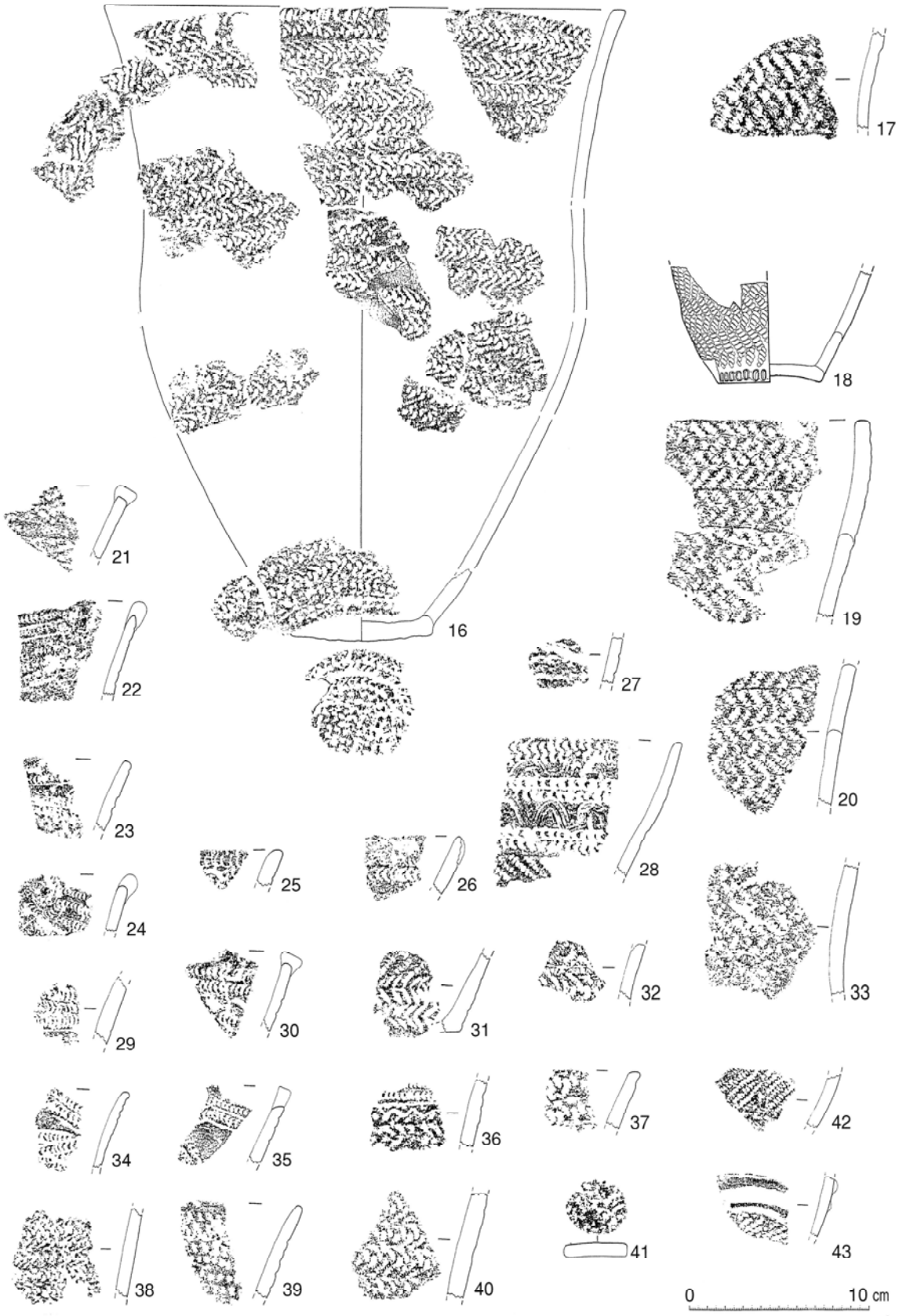
２）Ａ群土器「第12図42.43」

縄文中期の土器片を一括した。前期に混入して８点が認められた。第12図42は大木９式に平行するもので、他に「Ｓ」字状突起や渦巻文などの大木８a．８b式が含まれる。

第 10 図　大塚山遺跡出土土器実測図(1)



第 11 図　大塚山遺跡出土土器実測図(2)



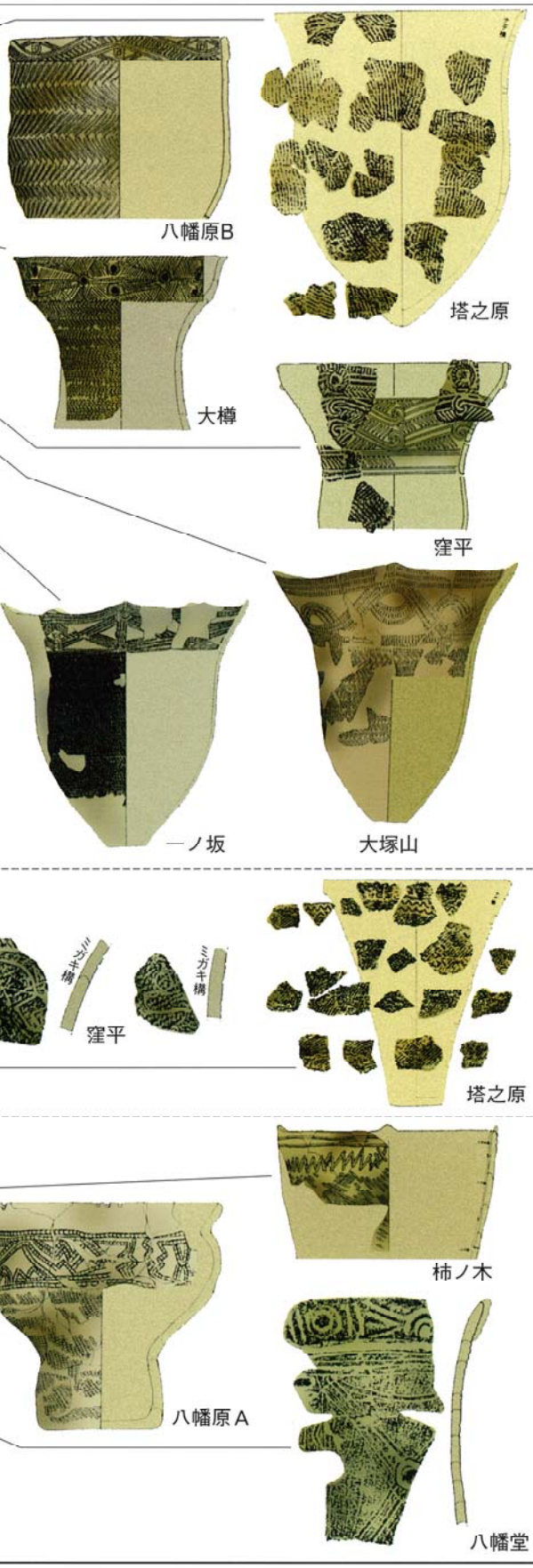
第 12 図　大塚山遺跡出土土器実測図(3)

表－２　大塚山遺跡出土土器観察表

No.	出土地区	部　位	文様表出技法	地　　文	備　　考
1	G14 － 18	口縁部	撚糸圧痕文	l撚糸	
2	G14 － 18	胴上部	撚糸圧痕文	l撚糸	
3	ＸＹ２	口縁部	単節斜縄文	ＲＬ３本多条縄文	
4	ＤＹ１	胴上部	羽状縄文	LR・RL4 本多条縄文	
5	ＡＺ１	半完形	ループ文・半載竹管文	ＬＲ４本多条縄文	波状口縁
6	ＸＹ２	口縁部	羽状縄文	LR・RL4 本多条縄文	
7	ＡＺ１	胴　部	ループ文	ＲＬ３本多条縄文	
8	ＡＺ２	胴上部	単節斜縄文	ＲＬ４本多条縄文	
9	G14 － 22	下胴部	羽状縄文	LR・RL3 本多条縄文	
10	G14 － 18	下胴部	羽状縄文	LR・RL4 本多条縄文	
11	G14 － 18	胴上部	羽状縄文	LR・RL4 本多条縄文	
12	AZ1 － 2	上半部	羽状縄文	LR・RL5 本多条縄文	波状口縁
13	G14 － 18	下胴部	羽状縄文	LR・RL5 本多条縄文	
14	表　採	胴上部	単節斜縄文・半載竹管文	ＲＬ４本多条縄文	
15	ＡＺ２	半完形	羽状縄文・半載竹管文	LR・RL4 本多条縄文	
16	AZ2 － 2	全体部	ループ文・半載竹管文	ＬＲ３本多条縄文	推定復元
17	ＸＹ２	胴上部	羽状縄文	LR・RL4 本多条縄文	
18	ＸＹ２	下胴部	羽状縄文・突刺文	LR・RL4 本多条縄文	
19	ＡＺ３	口縁部	羽状縄文	LR・RL4 本多条縄文	
20	ＡＺ３	胴　部	羽状縄文	LR・RL4 本多条縄文	
21	G14 － 18	口縁部	半載竹管文		
22	G14 － 18	口縁部	半載竹管文		
23	ＡＺ１	口縁部	半載竹管文		
24	ＡＺ１	口縁部	半載竹管文		
25	ＡＺ１	口縁部	半載竹管文		
26	ＡＺ１	口縁部	半載竹管文		
27	表　採	胴上部	半載竹管文		
28	ＡＺ２	口縁部	半載竹管文・コンパス文	ＲＬ４本多条縄文	
29	G14 － 18	胴上部	半載竹管文		
30	G14 － 18	口縁部	半載竹管文		
31	表　採	下胴部	ハ状文・単節斜縄文	ＬＲ３本多条縄文	
32	ＡＺ１	下胴部	羽状縄文	LR・RL4 本多条縄文	
33	ＡＺ２	胴　部	羽状縄文	LR・RL4 本多条縄文	
34	G14 － 21	口縁部	半載竹管文		
35	ＡＺ１	口縁部	半載竹管文		
36	ＡＺ１	胴上部	半載竹管文・羽状縄文	LR・RL3 本多条縄文	
37	ＡＺ１	口縁部	ループ文	ＬＲ３本多条縄文	
38	G14 － 18	胴　部	ループ文	ＬＲ３本多条縄文	
39	G14 － 18	口縁部	突刺文		
40	G14 － 18	胴上部	ループ文	ＬＲ４本多条縄文	
41	ＡＺ４	胴　部	羽状縄文	ＬＲ３本多条縄文	円盤状土製品
42	G14 － 18	下胴部	単節斜縄文	ＬＲ３本多条縄文	
43	ＸＹ１	下胴部	稜線文	ＬＲ３本多条縄文	

表－３　米沢市の縄文前期編年表

	東北南部	米沢市	米沢市出土の主要土器
前葉	上川名Ⅱ	塔之原Ⅰ	
		八幡原B・窪平Ⅰ	
		大樽Ⅲ・窪平Ⅱ	
	桂島	窪平Ⅲ	
		一ノ坂Ⅰ・松原	
		一ノ坂Ⅱ・大樽Ⅳ	
	大木１	横山Ⅲ・板谷Ⅱ	
		高野原	
	大木２ａ	板谷Ⅲ	
	大木２ｂ	笊籬Ｂ	
中葉	大木３	窪平Ⅳ	
	大木４	塔之原Ⅱ	
末葉	大木５	八幡原ＡⅤ	
	大木6(古)	八幡原AⅣ・大樽Ⅴ	
	大木6(新)	八幡原ＡⅢ	
		台ノ上Ⅰ	



⑵出土石器「第13図１～９」

石器は、Ⅲ層上面の遺物包含層で出土したものであり、総数62点確認された。そのほとんどは剥片を呈し完形品は１点も認められなかった。石材は、硬質頁岩が多くを占める。出土した中の第13図に図化した８点について述べる。

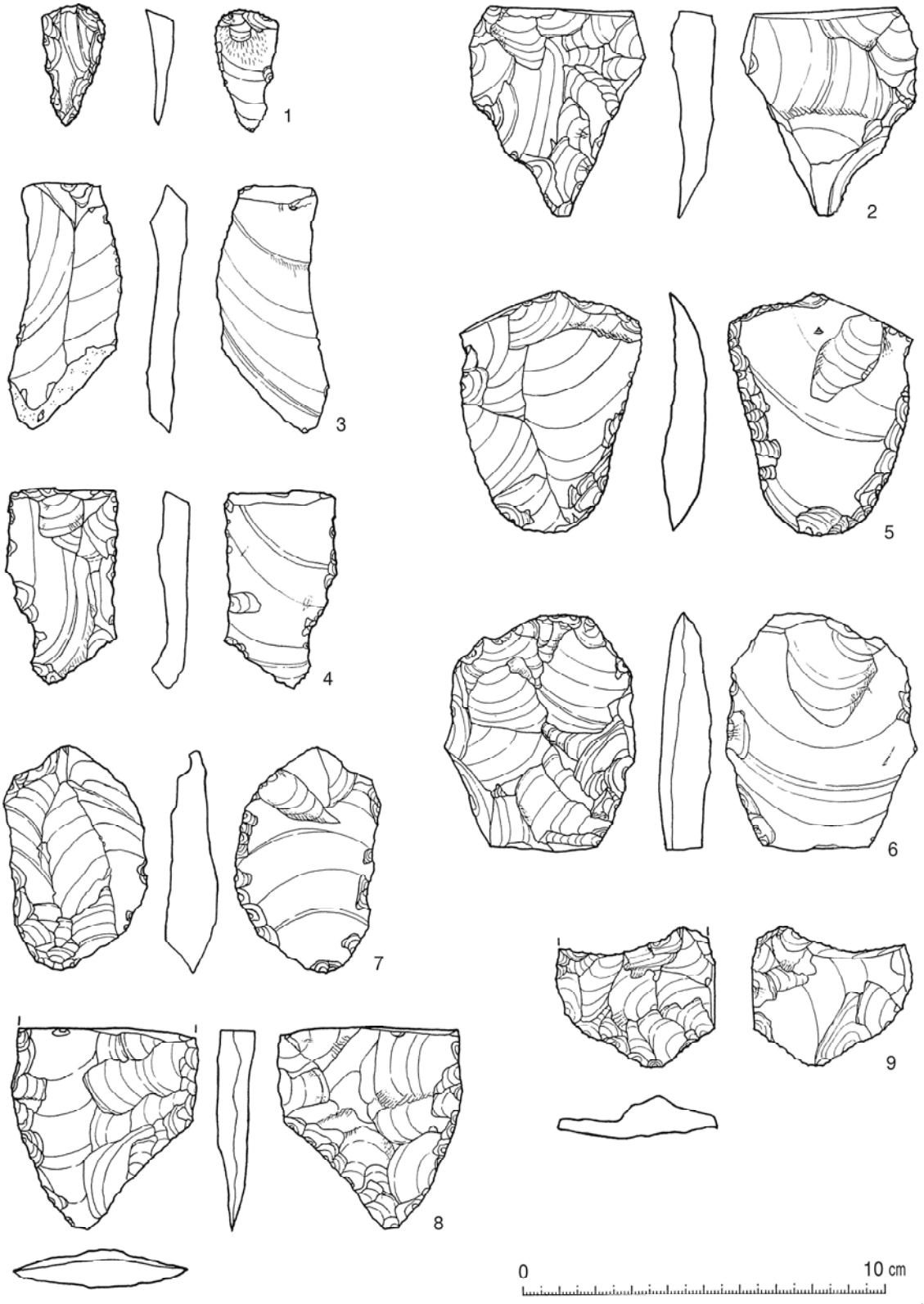
１・２は石錐の未完成製品で、共に錐部の整形が未完成である。３～７はスクレーパーの未完成品である。３は弓形に曲する形態を示す。５～７は楕円形状を呈し、主要先端部に剥離が認められる。

８の石匙は、本市「一ノ坂遺跡（石器製作工房跡）」出土の石匙の形態と類似しているもので、上部は欠損しているものの、両面に主要剥離を施し刃部の調整をしている。失敗（未完成）製品と製作途上の技法を有することから、この石匙の出土により、同遺跡との関連性や石器製作を考える上で貴重な資料である。

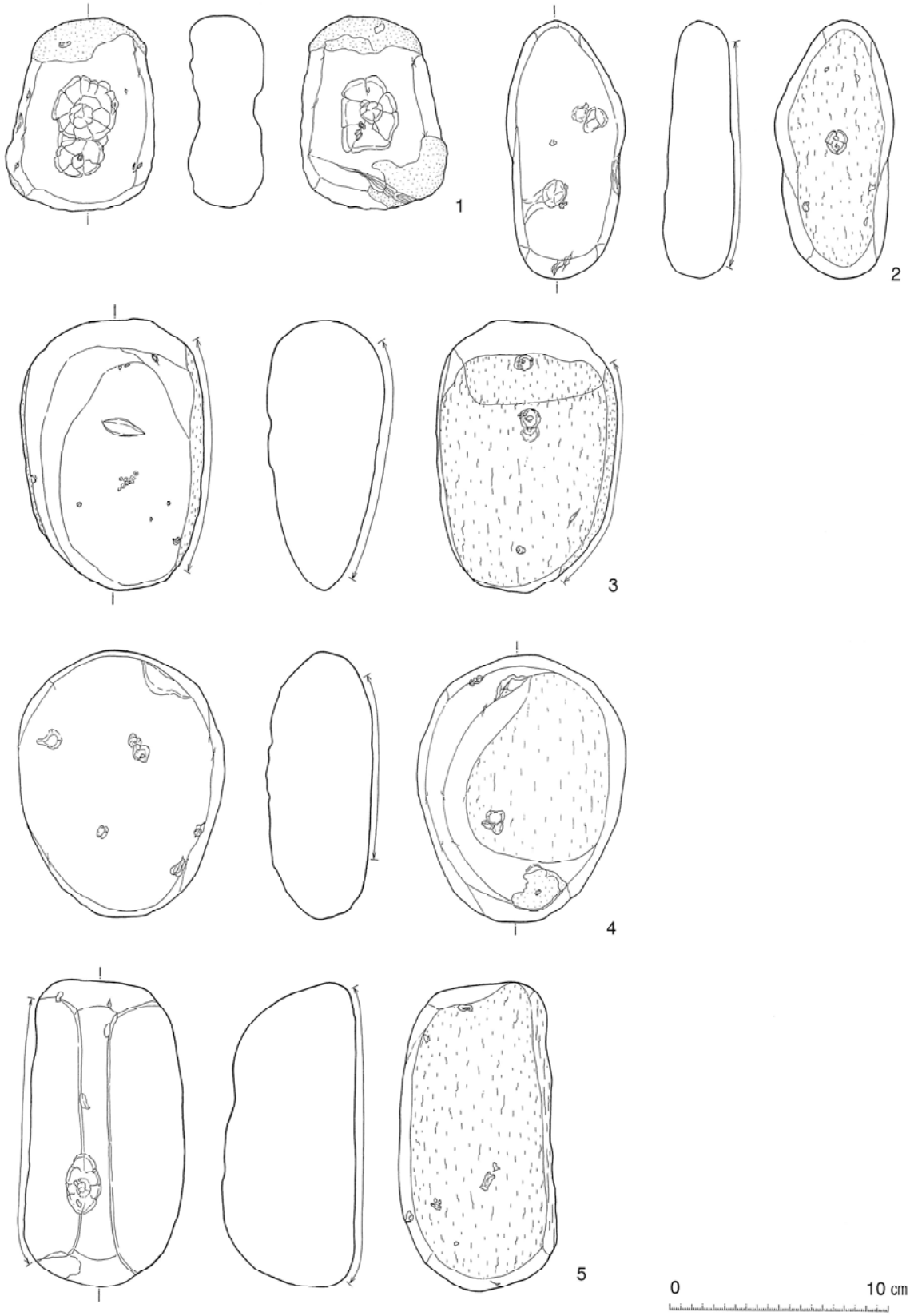
⑶出土礫器「第14図１～５」

形態としては、凹石と磨石の２種類である。１は小型の凹石で、片面の中央部に円形状の凹みが１箇所、片面には２箇所の凹みが認められる。２～５は磨石で、２～４は楕円形を呈し、片面のみの磨面を使用したものである。５は三角錐を呈しており、２面に磨面が認められる。礫器の石材は、安山岩の河原石である。

以上のように、調査面積が約300㎡と小範囲であり、土器及び石製品の出土量が少ないことや主要遺構が検出されなかったことから判断すると、本遺跡の中心部は北東側に位置するものと推測される。



第 13 図　大塚山遺跡出土石器実測図



第 14 図　大塚山出土石樂器実測図

5　考　察

大塚山遺跡は、隣接する大壇遺跡と同様に、縄文前期初頭から中期末葉期にかけた複合遺跡であることは、既に米沢市教育委員会や置賜考古学会の調査で確認されている。今回の調査箇所は、遺跡の中心部から離れた南東部の端に位置する範囲を精査したものであり、主要な遺構は検出されなかった。しかし、縄文前期初頭におけるまとまった土器群と一ノ坂遺跡技法の石器が確認されたことは大きな成果といえる。

簡単に成果について述べておく。

(1)遺　構

今回検出された遺構は、土壙３基と風倒木跡２基、焼土遺構１基外に柱穴86基のみで、主要遺構は存在しなかった。遺物の大半は、浅い土壙と包含層を中心にまとまって検出されたもので、一括土器を配した何らかの祭祀を行った場所であった可能性がある。

(2)土　器

今回出土した土器の大半は、縄文前期初頭の関山式併行する土器群といえる。Ａ群２類とした半裁竹管を用いて口縁部文様帯を構成するグループは、窪平Ⅲに後続する一ノ坂遺跡出土の文様と一致している。ここでは、文様全体を把握するための参考として表-４を加えてみた。

特に窪平遺跡と一ノ坂遺跡の土器群を中心に検討してみたい。

窪平遺跡の土器は、口縁部文様帯に施文される蕨状撚糸圧痕がⅢ段階に変容することが確認されている。Ⅰ段階は太状の節を用いた撚糸圧痕文を波状に展開させた端を蕨状に仕上げる口縁部文様帯で、帯状に区画された内部にも撚糸圧痕文を刻むように加えるもので、八幡原Ｂがその典型となる。Ⅱ段階になると節の細い撚糸を上下２段に斜行させることによって菱形や三角形の区画文様を展開させるようになる。さらに、その区画内を埋める棒状工具やヘラ状工具、竹管などによる沈線文や突刺文を加えるといった特徴が顕著に見られるようになる。Ａ群１類は丁度この仲間に属し、大樽Ⅲはその代表といえる。

Ⅲ段階に入ると撚糸圧痕文を描いた後に沈線文を加えて調整するのが特徴となる。この段階までが所謂「撚糸圧痕文」の仲間であり、胴部の文様としての地文は概ね羽状縄文で占められている。

窪平のⅢ段階に引き継ぐ文様として分類されるのが、一ノ坂遺跡と松原遺跡から出土した土器群で、概ね２段階の変容が確認されている。ここではⅣ段階とⅤ段階としておく。

Ⅳ段階の土器は、松原や一ノ坂Ⅰと称した土器群で、大塚山遺跡出土のＡ群２類とほぼ一致する。蕨状撚糸圧痕文の消滅に変わって、登場した大型の波状口縁土器の口縁部文様帯に施文される菱形文や重三角文を展開するのが特徴となる。また、波状口縁に施される円状突刺文や円弧文は、かつての蕨状撚糸圧痕文を模倣したものである。大塚山遺跡出土の２点の復元土器は、何れもこうした特徴を反映したものといえる。地文の胴部文様は、羽状縄文とループ文がほぼ半数を占める。

最後のⅤ段階となるのが一ノ坂Ⅱ及び大樽Ⅳと分類する土器群である。大きく発達した波状口縁部に沿って菱形や重三角文、連続三角文等の区画文様を展開するのが特徴で、区画文様の接点

や波状部分に設置されたⅣ段階の円形突刺文や円弧文は消滅するようになる。胴部文様の地文の大半は、ループ文が主流となり約８割を占めるようである。大塚山遺跡の土器群の地文をみればループ文が占める割合が約４割であることやⅤ段階の文様が多く占めることでもⅣ段階を主体とした土器群といえる。

⑶石　器

出土石器で注目されるのが石匙の製作途上の一ノ坂技法を有する失敗製品である。一ノ坂技法とは、母岩となる頁岩の中心部だけを用いて第Ⅰ工程から第Ⅹ工程に至る石器製作技法であり、石匙をはじめ石錐・両尖匕首・石鏃の４機種を中心に製作していた工房集落である。

一ノ坂遺跡からは、全長43.5mの長大な竪穴住居跡「石器製作工房跡」や国内初となる８棟の住居を連ねた「連房式竪穴住居跡」、墓壙群等を馬蹄形に配置した工房集落の全貌が明らかにされている。一ノ坂遺跡で製作された石器は、東北南部を中心に北関東や北陸地方へと広域に搬入されていることが判明しており、高度な石器製作技法と縄文時代の交流を具体的に示す貴重な遺跡として平成９年６月に国の史跡に指定されている。

今回、一ノ坂技法の石器が大塚山遺跡で確認されたことは、一ノ坂遺跡と同様な技法による石器製作が行われていたことを示唆するものであり、一ノ坂遺跡との関連性や石器製作技法の普及を考える上で貴重な資料いえる。

⑷まとめ

前者の土器については、最近の調査成果によって前期初頭期における年代区分が細分化できるようになってきた。広義の前期初頭（上川名Ⅱ式～大木２ｂ式）を米沢編年で細分すると塔之原Ⅰ～の８区分に細分することが可能である。特に、大塚山遺跡で検出された一ノ坂Ⅰ・一ノ坂Ⅱに関しての土器群については、他の遺跡からの出土例が僅かであり独自色で捉える向きもあった。一方、窪平遺跡からは、蕨状撚糸圧痕文の出現から消滅の推移が把握され、一ノ坂Ⅰに移行することが確認されている。こうした一連の動きは、一ノ坂技法に代表される地方独自の生活圏（地方文化）が関東地方や東北南部の文化圏と融合（影響を受け）しながら発達したと解釈されるのである。一ノ坂Ⅱの特色となる三角・重三角・菱形文等に区画した外部に地文を施文する構成は一ノ坂遺跡を中心とする米沢周辺で確立した文様と推測され、東北地方や関東・中部地方に影響を与えたものと考えている。

このように、地域に根ざした調査成果を分析することによって、所謂「文化圏」の相互関係の仕組みが明らかになるものといえる。今回の大塚山遺跡の土器群や一ノ坂遺跡独自に発達したと考えられた石器技法が検出されたことは、今後の地域文化を研究する上で特筆すべき成果といえよう。

報告書抄録

ふりがな	おおつかやまいせき
書名	大塚山遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	米沢市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第81集
編著者名	月山隆弘
編集機関	米沢市教育委員会
所在地	〒992-0012　山形県米沢市金池三丁目1番55号　TEL0238-22-5111
発行年月日	2003年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
おおつかやまいせき 大塚山遺跡	やまがたけんよねざわし 山形県米沢市 おおあざささの 大字笹野	6202	米沢市 遺跡番号 N−543	37度 54分 5秒	140度 8分 1秒	20020516 〜 20020611	300㎡	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大塚山遺跡	集落跡	縄文時代 （前期・中期）	土壙・柱穴・風倒木跡	縄文土器・石器	

写　真　図　版

図版一　大塚山遺跡

▲調査区全景（北から）

▲ＤＹ１土壙（南から）

▲ＤＹ２土壙（西から）

▲ＸＹ１風倒木跡（北西から）

▲ＸＹ２風倒木跡（南東から）

▲遺物出土状況

▲遺物出土状況

▲遺物出土状況

▲遺物出土状況

図版六　大塚山遺跡

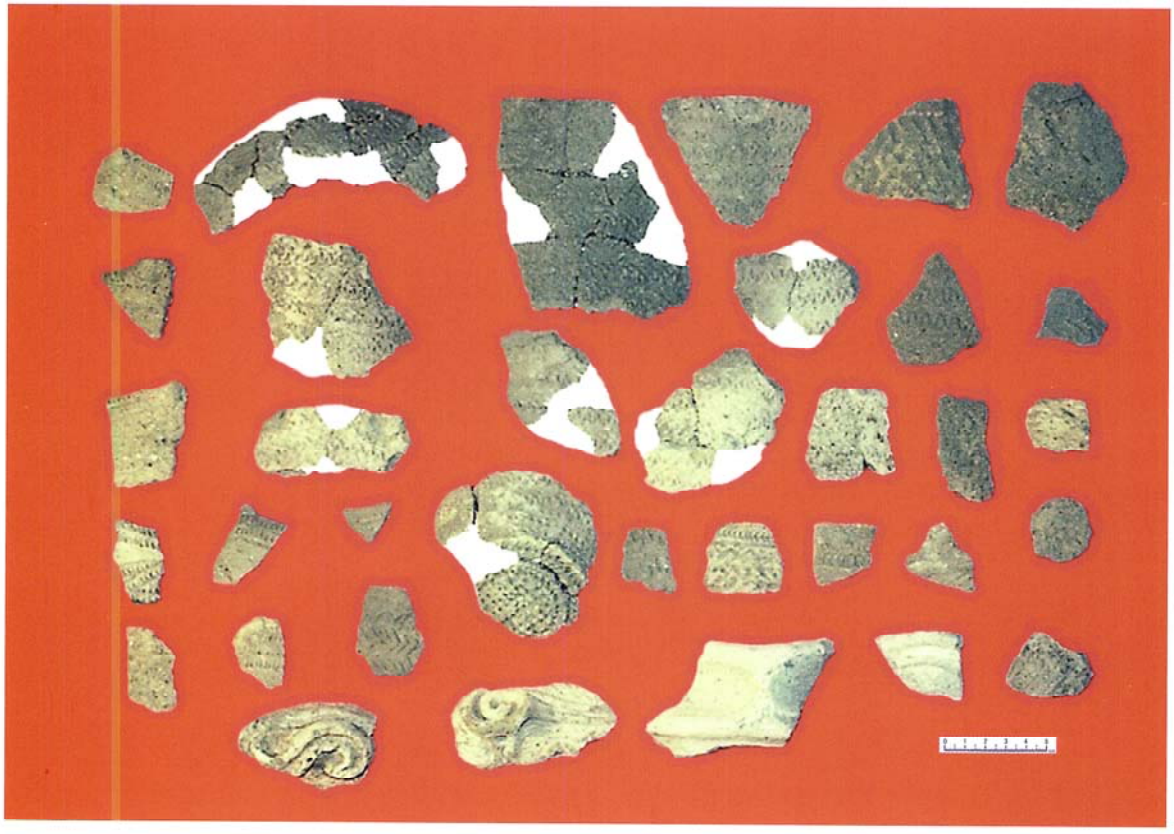
▲調査区全景（南東から）

▲調査風景（南東から）

▲復元土器(1)

▲復元土器(2)

▲出土土器片(1)

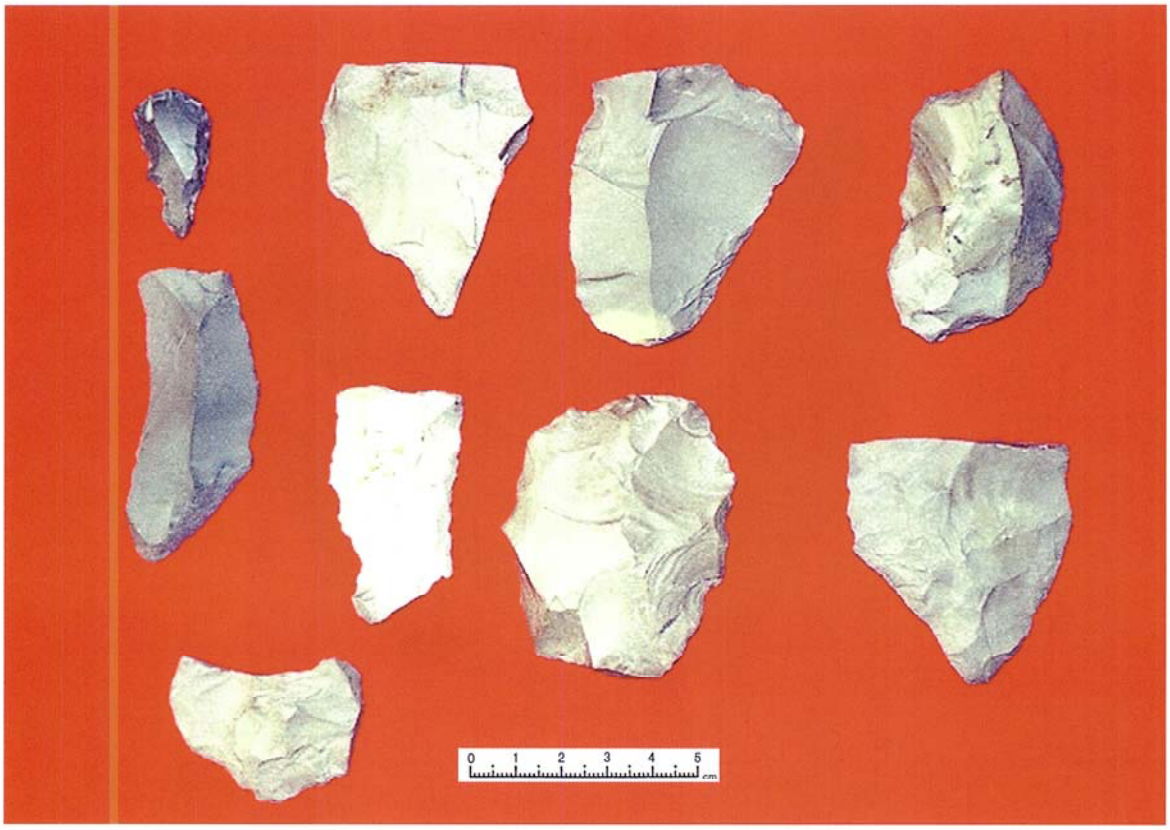


▲出土土器片(2)

図版九　大塚山遺跡

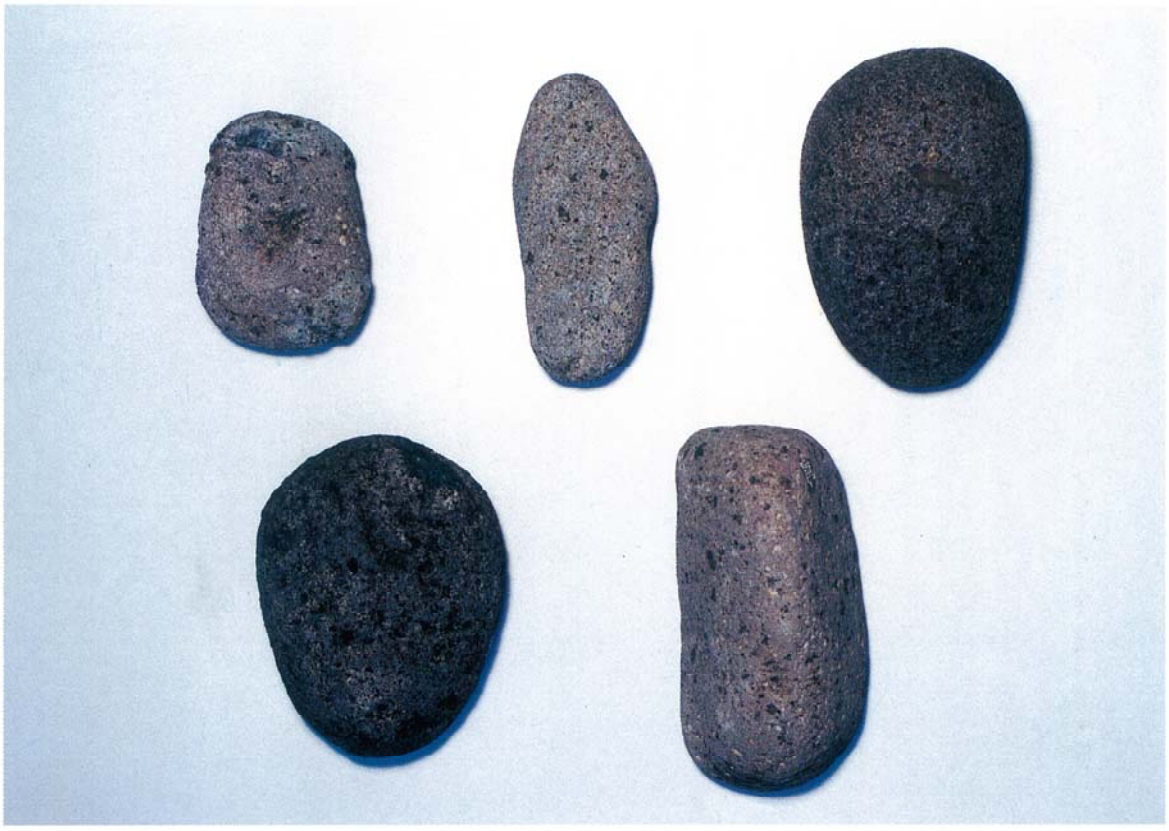
▲小型土器

▲一ノ坂型石器（石匙）

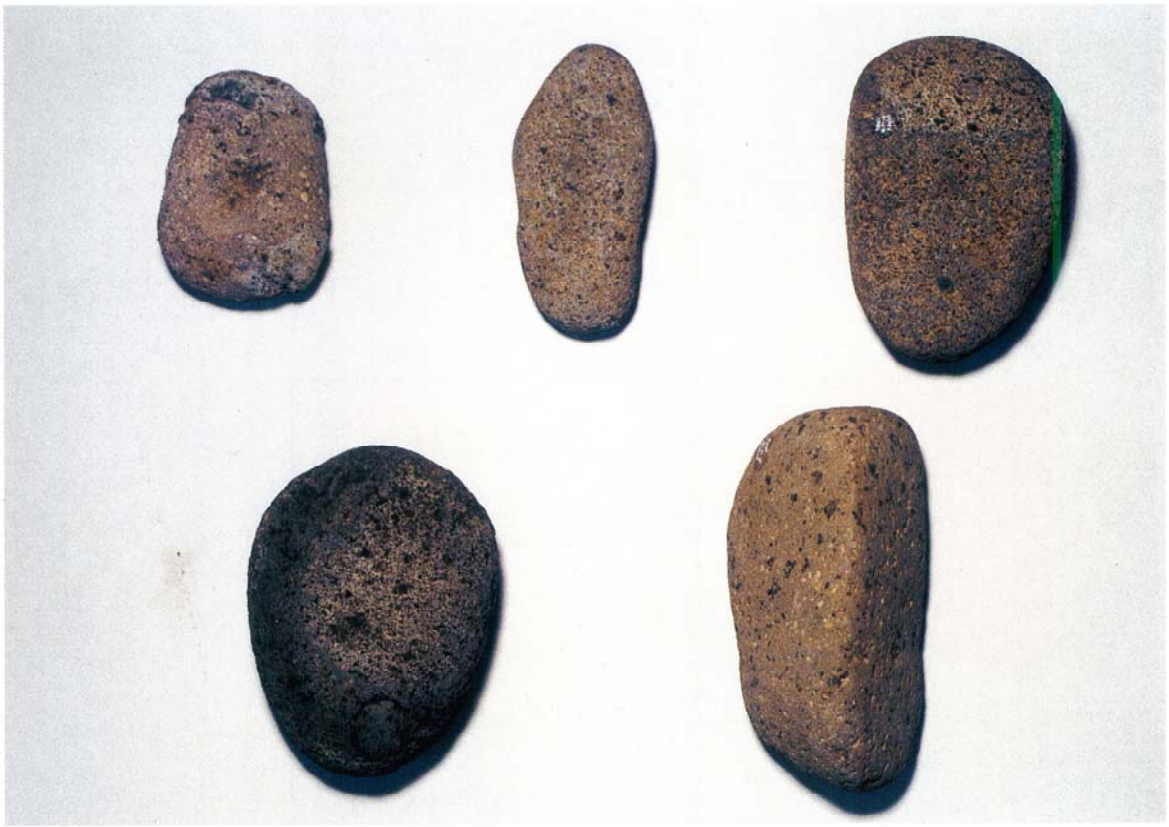


▲出土石器類（表面）

▲出土石器類（裏面）



▲出土礫器類（表面）



▲出土礫器類（裏面）

米沢市埋蔵文化財調査報告書　第81集

大塚山遺跡発掘調査報告書

平成15年３月20日　印刷
平成15年３月31日　発行

発行／米　沢　市　教　育　委　員　会
米沢市金池三丁目１番５５号
ＴＥＬ（０２３８）２２－５１１１

印刷／㈱　青　葉　堂　印　刷
米沢市下花沢三丁目８番５０号
TEL(0238)21－2366㈹　FAX21－1776